



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

6月号—No.337
2023.5.25
(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【褐色(かちいろ・かちんいろ)】黒みがあった青紫色。

褐色(かっしょく)と音読みすると茶系だが、褐色(かちいろ)と読むと青系で紺よりさらに黒く見える藍染の色のこと。平安時代から色名として用いられ、特に鎌倉時代になると褐(かち)が勝ちに通じることから武士の装束にこの色が好んで用いられた。

●目次／contents

今月のニュース..... 2

令和5年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」全体研修会報告

財団からのお知らせ..... 4

「地域創造フェスティバル2023」開催のお知らせ／令和5年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」募集開始時期について／「公共ホール求人情報」掲載お申し込み方法／令和4年度事業報告書 ホームページ公開のお知らせ／地域創造発行物のご案内／令和5年度「市町村長特別セミナー」報告

今月の情報..... 6

地域通信

今月のレポート..... 12

島根県雲南市 雲南市創作市民演劇2023『花みちみちて街』

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4093 Fax. 03-5573-4060
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

●令和5年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」全体研修会

2023・2024登録アーティストが初お披露目

令和5年度 公共ホール 音楽活性化事業 全体研修会

2023年4月17日～19日



写真

左上: 多田淳之介さんのワークショップ

右上: 「おんかつから始まるホールと地域の未来」(大澤寅雄さん)

左下: 登録アーティストプレゼンテーション(西村悟さん)

右下: 登録アーティストプレゼンテーション(今田篤さん)

●2023・2024年度公共ホール音楽活性化事業登録アーティスト

- 今田篤(ピアノ)
- 水谷桃子(ピアノ)
- 上田純子(ソプラノ)
- 西村悟(テノール)
- 関喜弦介(ギター)
- カメハ(パーカッションデュオ)
- Modétro Saxophone Ensemble (モデトロ・サクソフォン・アンサンブル/サクソフォン四重奏)

●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ

芸術環境部 矢嶋
Tel. 03-5573-4064

*「地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果の検証と評価に関する調査研究」(令和5年3月)地域創造の事業「おんかつ」「ダン活」等に参加経験があり、長期的・継続的に地域の小中学校へのアウトリーチに取り組んできた調査協力館(6館)とアウトリーチ先の小中学校児童生徒、教職員へのアンケートなどを実施。

<https://www.jafra.or.jp/library/report/>

公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)では、実施館の担当者、コーディネーターや登録アーティストが一堂に会する全体研修会を実施しています。今年度は4月17日から19日まで地域創造会議室とトッパンホールを会場にして開催されました。今回は登録アーティストも入れ替わり、23年度から2カ年にわたって活動する新規登録アーティスト7組・11名による公開プレゼンテーションが行われました(コロナ禍により2020-2022年度登録アーティストは登録期間を1年延長)。

●研修ではワークショップも実施

研修初日には地域創造会議室を会場にしたコミュニケーション・ワークショップが対面で行われました。今回のファシリテーターは、地域での参加型演劇で豊富な経験をもち、地域創造のリージョナルシアター事業派遣アーティストであり、今年度からおんかつコーディネーターに就任した演出家の多田淳之介さんです。多田さんは、身体を使った簡単なゲームをやりながら「無駄なこと、失敗することを楽しんでほしい」とひと言。その後、短い時間で演技について即席で体感してもらうオリジナル・ゲー

ム(グループに別れて1分間シリトリを行い、そこでのやりとりを思い出しながら台本を作成し、自分で自分の役などをリアルに再現する)を行いました。

また、おんかつアドバイザーを務める大澤寅雄さん(ニッセイ基礎研究所)による講義も行われました。大澤さんは、戦後から現在までの大まかな文化政策の流れを解説するとともに、これからの公立ホールの担い手に求められることとして「事業の自己評価と説明」「組織内外の協働・連携」「文化資産の循環と持続可能性」の3点を指摘。その上でアウトリーチについて、地域創造が昨年度実施した調査結果(*)を基にプログラム実施後に児童の満足度、教職員の評価が高まっていることなどを紹介。最後に、植物の生態系になぞらえ、こうした事業を自律的に継続するための方策としてホールが仲介役を果たした色々な「文化生態系の小さな循環」を構築する必要性について訴え、参加者にエールを送っていました。

●1年遅れの新規登録アーティストお披露目

コロナ禍により1年遅れのオーディションで選考された登録アーティストたちは、昨年10月

▼今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

にアウトリーチプログラムについて考える研修を受講(レター2022年11月号参照)。小学校での実地研修を経て、18日に行われたトッパンホールでの公開プレゼンテーションに臨みました。

トッパッターは作曲家、編曲家としても活動する閑喜弦介さん(ギター)。「身体で音楽を能動的に感じてほしい」と話し、卓抜した技術でクラシック音楽、映画音楽、日本の歌謡曲まで披露しました。ピアニストでは、昭和音大ピアノアカデミーに在籍中という初々しい水谷桃子さんがストーリーでイメージを伝えながら『シンデレラと王子のワルツ』などを演奏。また、実力派の今田篤さんは3曲のみの構成で、右手が黒い鍵盤のみを弾くショパンの『黒鍵のエチュード』でスタートし、『トルコ行進曲』をモーツァルト版、ジャズ風に編曲したファジル・サイ版、超絶技巧のアルカディ・ヴォロドス版で弾き比べ。自然体のトークと演奏でピアノの魅力を存分に伝えていました。

声楽家では芝居心のあるテノールの西村悟さんとソプラノの上田純子さんが登場。西村さんは、音楽を五感で味わう歌のレストラン「ル・モンド」の総料理長に扮して世界各国から取り寄せた歌のフルコースを披露し、会場を大いに湧かせていました。上田さんは、声楽家を志した自らの歩みを振り返り、アカペラで始まる『アメージング・グレイス』などで言葉をもつ音楽と声の魅力を伝えていました。

そして、永野雅晴・仁美さん夫妻によるパークッション・デュオのカメハはタンバリンやウッドブロックなどの馴染み深い楽器や二人羽織のように演奏するスネアドラム、マリンバの上にカスタネットを置いて曲弾きするセジヨルネの『ハムシン』まで息のあったパフォーマンスを展開。最後を締めくくったモデトロ・サクソフォン・アンサンブルは異なる個性をもつ4種類のサクソフォン(ソプラノ・アルト・テナー・バリトン)で構成される四重奏についてアピールしていました。

●企画検討会も白熱

最終日には今年度のおんかつ事業に参加

する15館の担当者とコーディネーターがアウトリーチの企画を考えるグループディスカッションが行われました。予め地域資源シート(ホールと関係がある・関係を築けそうな要素を教育・福祉・歴史・文化・食・観光・産業・その他の領域について整理するシート)を記入して研修に臨んだ担当者は、地域との関係を見据えて企画を具体化していきました。

「歌のレストランで地元の高校と協働してみたい。これをきっかけに高校と継続的に何かできるのではないか」「地元の食材を販売している道の駅でコンサートをやりたい」「機動力のある楽器なら商店街の中にある映画館でアウトリーチができる。これをきっかけに商店街との繋がりもつくりたい」などなど、アイデアが溢れていました。

今年度のおんかつ事業は秋から本格的に始まります。詳細は当財団ホームページやレターで発表しますので、ぜひ興味をもっていただければと思います。

●令和5年度「公共ホール音楽活性化事業」参加団体一覧(全15団体)

- 秋田県能代市
- 山形県鶴岡市
- 新潟県魚沼市
- 富山県氷見市
- 山梨県笛吹市
- 長野県須坂市
- 長野県安曇野市
- 岐阜県大野町
- 三重県津市
- 大阪府茨木市
- 兵庫県養父市
- 兵庫県市川町
- 岡山県久米南町
- 福岡県那珂川市
- 沖縄県名護市

●令和5年度「公共ホール音楽活性化事業」全体研修会スケジュール

	4月17日(月) 地域創造 会議室	4月18日(火) 地域創造 会議室/トッパンホール	4月19日(水) 地域創造 会議室
10:00		「おんかつから始まるホールと地域の未来」 大澤寅雄	「グループ別企画検討」 赤木舞、菊地俊孝、桜井しおり、佐藤良子、多田淳之介、三浦幸恵、仕田佳経
11:00			
12:00		グループワーク~これまでのゼミを振り返って~	
13:00	オリエンテーション		「企画発表」 赤木舞、菊地俊孝、桜井しおり、佐藤良子、多田淳之介、三浦幸恵、仕田佳経
14:00	「ワークショップ」 多田淳之介	プレゼンテーションの聴き方	「フィードバック」
15:00	事業概要・実務説明	2023・2024年度登録アーティスト 公開プレゼンテーション	事務連絡/閉講式
16:00	事例紹介~事業担当者編~ 深見幸子、三浦幸恵	●閑喜弦介 ●水谷桃子 ●西村悟	
17:00	事例紹介~アーティスト編~ 竹多倫子、赤木舞、菊地俊孝	●カメハ ●今田篤 ●上田純子	
18:00	1日目のふり振り返りと今後について	●モデトロサクソフォンアンサンブル	
	質疑応答		
19:00		交流会	

財団からのお知らせ

●「地域創造フェスティバル2023」開催のお知らせ

地域創造が取り組んでいる事業を紹介し、公共ホールや自治体が事業を企画・実施する上で参考になる情報を提供することを目的に、「地域創造フェスティバル2023」を開催します。本年度は3日間にわたって行います。地域創造の登録アーティスト、全国各地の公共ホール

や自治体の文化担当の方々が多数来場されますので、ネットワークづくりや情報交換の場としてもご活用いただけます。ぜひご参加ください。

出演者情報等のプログラム詳細および参加者募集につきましては、次号(7月号)でご案内します。

●地域創造フェスティバル2023概要

[日程] 7月24日(月)～26日(水)

[会場] 東京芸術劇場(豊島区西池袋1-8-1)

[プログラム]

- シンポジウム「アウトリーチの今とこれから～地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果に関する調査研究報告書より～」(令和4年度調査研究事業報告)
- 公共ホール音楽活性化支援事業(おんかつ支援)のプレゼンテーション
- 公共ホール音楽活性化事業・公共ホール邦楽活

性化事業のセミナー

- 公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)のプレゼンテーション
- 助成要綱・事業に関する説明会
「令和6年度 地域の文化・芸術活動助成事業」
「令和6年度 地域伝統芸能等保存事業」
「令和6・7年度 公立美術館活性化事業」
「令和6年度 リージョナルシアター事業」
- 情報交換会
【同時開催】
都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議

●令和5年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」募集開始時期について

地域創造大賞(総務大臣賞)は、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰し、全国に広く周知することにより、公立文化施設のさらなる活性化を図り、美しく心豊か

なふるさとづくりの推進に寄与することを目的としています。平成16年度から令和4年度までの19年間で138施設が受賞しました。

実施要領・応募書については、5月下旬に当財団ホームページに掲載する予定です。ご応募をお待ちしています。

●地域創造フェスティバルに関する問い合わせ

芸術環境部 藤原
Tel. 03-5573-4183

●「地域創造大賞(総務大臣賞)」に関する問い合わせ

総務部 三田・内田
Tel. 03-5573-4184
taishou@jafra.or.jp

●公共ホール求人情報に関する問い合わせ

芸術環境部 人材育成担当
jinzai@jafra.or.jp

※お詫びと訂正

前号(5月号)P8の「令和5年度 地域創造メンバー」に以下の記載漏れがございました。お詫びして訂正させていただきます。

◎総務課
大堀洋子(おおほり・ようこ) 4050

●「公共ホール求人情報」掲載お申し込み方法

登録フォームにアクセスいただき、必要事項を直接ご入力ください。送信を行うには、フォーム最下部の投稿用認証キー欄へID、パスワードの入力が必要です。

※スパム対策のため、登録フォームURLおよびログインID、パスワードはホームページ上に記載していません。地域創造レターをご確認いただくか、地域創造までお問い合わせください。

- ① 求人情報登録フォームへアクセス。
- ② 登録フォームに沿って、必要事項を入力してください。
- ③ フォームの最下部にある投稿用認証キー欄にID、パスワードを入力。
- ④ 登録を完了すると自動で登録完了をお知らせするメールがお手元に届きます。
- ⑤ 地域創造が内容を確認後、ホームページに情報を公開します。公開完了はメールでお知らせします。登録から情報公開までは2～3日程度お時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

※情報を修正する場合には、「修正フォーム」へアクセスし、投稿用認証キー欄に登録時に使用したメールアドレス・ID・パスワードを、No.入力欄に公開完了のメールに記載した登録No.をご入力の上、「編集する」をクリックしてください。フォームから情報を修正し登録を完了すると、自動で登録完了をお知らせするメールが届きます。新規登録時と同じく、情報公開までは2～3日程度お時間をいただく場合がありますのでご了承ください。

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●令和4年度事業報告書 ホームページ公開のお知らせ

令和4年度の各事業報告書を当財団ホームページで公開しています(PDF版を閲覧・ダウンロード可能です)。

「財団のご案内」→「事業報告書・事業計画書等」
<https://www.jafra.or.jp/about/report.html>

地域創造が運営しているホームページは、地域の文化・芸術に関する情報をより広く提供することを目的に、当財団の概要・事業紹介のほか、地域創造レターや調査研究報告書を掲載し、地域の最新の動向・活動等をお伝えしています。また各事業の実施要綱や申請書、様式をダウンロードすることもできます。

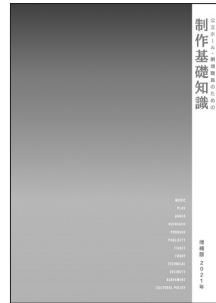
地域における文化・芸術活動の情報収集、公立文化施設の活性化や芸術環境づくりにぜひ活用ください。

●地域創造発行物のご案内

文化・芸術を通じた地域づくりの事例を紹介する雑誌『地域創造』のバックナンバーや、地域創造レターで長年にわたって連載してきた制作基礎知識シリーズを中心にまとめたハンドブック『公立ホール・劇場職員のための制作基礎知識 増補版 2021年』などは、当財団ホームページから入手が可能です(右記参照)。



『地域創造』第48号
特集：ニューオープン／育成環境を考える



『公立ホール・劇場職員のための制作基礎知識 増補版 2021年』

●地域創造発行物送付申込フォーム

<https://www.jafra.or.jp/library/nyushu/application/>

◎問い合わせ

芸術環境部 管藤
Tel. 03-5573-4066

●「市町村長特別セミナー」に関する問い合わせ

芸術環境部 天野
Tel. 03-5573-4185

●令和5年度「市町村長特別セミナー」報告

地域創造では、文化・芸術による地域づくりへの理解を深めていただくため、全国の市町村長を対象とする「市町村長特別セミナー」を実施しています。

今年は4月27日に、千葉県千葉市にある市町村職員中央研修所(市町村アカデミー)との共催でセミナーが開催され、文化・芸術による地域づくりについての講義とおんかつ支援登録アーティストによるミニコンサートを実施しました。

講義は「文化からはじまる地域の未来」と題し、株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事・芸術文化プロジェクト室長の吉本光宏さんが登壇しました。

人口減少と急速な高齢化・少子化が進む中、地域の活力をいかに維持していくかが、多くの自治体の課題となっており、その中で文化芸術の分野から地域活力の創出を図ろうとする取り組みについて、具体例を交えわかりやすくご紹介いただきました。

アートを起点とした地域活力の創出の例として「瀬戸内国際芸術祭」が挙げられましたが、島全体が観光資源となるだけでなく、島への移住者も増え、過疎化と高齢化に悩まされていた島に新たな活力をもたらしている

とのことでした。

今回の講義から文化芸術の可能性は非常に幅広く、アートを起点としたまちづくりや、地域の方々との交流プログラムなど関連分野での連携を通して、「ひと」や「まち」を元気にする事例をご紹介いただきました。そのためには、起爆剤である文化芸術への投資をまず行うことが重要であり、社会問題をも解決できる可能性を秘めた文化芸術の活用方法について、知見を広める貴重な機会となりました。

講義に続いて、地域創造おんかつ支援登録アーティストの石上真由子さん(ヴァイオリン)によるミニコンサートが行われました。コンサートでは、受講者とコミュニケーションを取りながら、演奏する曲目の紹介を行うとともに、ヴァイオリンの弓毛を一度外して実際にどんな毛が使われているのか説明するなど、普段のコンサートではなかなか見ることのできないアウトリーチならではの場面もありました。

楽器奏法の紹介では、ハッピーバースデー変奏曲を演奏し、聴きなじみのある曲が複雑なリズムや奏法により、さまざまな色をつけて変化していく様子に受講者からは

驚きの声が上がっていました。演奏が終わった後は自然とアンコールが沸き起こるなど、ヴァイオリンの繊細かつ力強い音色や、多様な奏法の面白さに引き込まれ、会場全体が一体感に包まれるミニコンサートとなりました。



上：吉本光宏さんによる講義／下：石上真由子さん(ヴァイオリン)によるミニコンサート(ピアノ伴奏：城綾乃さん)

地域通信

●掲載情報について

最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介します。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 林・管藤

●2023年8月号情報締切
6月23日(金)

●2023年8月号掲載対象情報
2023年8月～10月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●札幌市

北海道立三岸好太郎美術館
〒060-0002 札幌市中央区北2条西15丁目
Tel. 011-644-8901 井内佳津恵
<https://artmuseum.pref.hokkaido.lg.jp/mkb/>

所蔵品展「道産子が行く。」

三岸好太郎生誕120年・美術館新館開館40年を記念した所蔵品展。1967年に遺族から寄贈された220点の作品を保存・展示するために設置された当館では、三岸の作品をさまざまな角度から切り取った所蔵品展が毎年開催されている。今回は三岸が愛した北海道の自然や街並み、そこに生きる人々を描いた作品を通して、激動する1920～30年代の美術界をたくましく、自由奔放に歩んだ三岸の画業を「道産子」をキーワードで紹介する。

[日程]4月29日～7月5日
[会場]北海道立三岸好太郎美術館

●青森県青森市

青森公立大学 国際芸術センター 青森
〒030-0134 青森市合子沢字山崎152-6
Tel. 017-764-5200 慶野結香
<http://www.acac-aomori.jp/>

発現する布—オセアニアの造形と福本繁樹/福本潮子

南太平洋メラネシアのタバ(樹皮布)や編み布など、織物以前から伝わる手仕事による布と、オセアニアと日本の造形論への洞察を通して「染め」にしかできない表現を追求してきた福本繁樹。藍のもつ透明感や精神性を美術へと昇華し、近年では地方の生活と労働の中でつくられ使われた古い自然布を用いた作品展開を見せる福本潮子。布でしかなし得ない表現や布の可能性について考える二人を紹介する。

[日程]4月15日～6月18日

[会場]青森公立大学 国際芸術センター 青森 [ACAC]



パプアニューギニア、オロ州のタバ(右)とヴァヌアツのパンダヌス編み布(左)、福本潮子の作品(奥) 撮影:Ufer! Art Documentary

●青森県八戸市

八戸市美術館
〒031-0031 八戸市番町10-4
Tel. 0178-45-8338 大澤苑美
<https://hachinohe-art-museum.jp>

美しいHUG!

ゲストキュレーターにアートディレクターの森司を迎え、青木野枝や川俣正、きむらとしろうじんじんらアーティスト6名による展覧会とアートプロジェクト。八戸市美術館の活動は作品を展示する「ホワイトキューブ」と人の活動のための多目的スペース「ジャイアントルーム」の2つでひとつであることを読み解き、作品と人、展覧会とプロジェクト、空間と作品など、さまざまな“HUG(ハグ)”を創出するプログラムが展開される。

[日程]プロジェクト:2022年6月11日～/展覧会:4月29日～8月28日

[会場]八戸市美術館



「きむらとしろうじんじん八戸野点2022 in 美術館マエニワ」(2022年10月)

●岩手県花巻市

萬鉄五郎記念美術館
〒028-0114 花巻市東和町土

沢5区135

Tel. 0198-42-4402 高橋峻
<https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/bunka/yorozutetsugoro/1002101.html>

みんなの萬鉄五郎展

特異な表現性でしばしば敬遠されがちな洋画家・萬鉄五郎の作品を、イラストや漫画を使ってゆる～くいじりまわし、ユーモアとウィットに富んだ作品の魅力を紹介する。身近な言葉を使用し、ひとつの鑑賞方法を提案する展覧会。

[日程]4月29日～7月2日
[会場]萬鉄五郎記念美術館

●仙台市

せんだい3.11メモリアル交流館
〒984-0032 仙台市若林区荒井字沓形85-4
Tel. 022-390-9022 皆上小冬
<https://sendai311-memorial.jp/>

ここに根をはる—津波のあとの植物たちとその環境

2013年より東日本大震災の津波浸水域に芽生えた植物を描き続けてきた画家・倉科光子による水彩画作品「tsunami plants」計13点と、実際に倉科が仙台の沿岸部を歩き描いた新作2点を展示する。また、仙台市沿岸部の植物を巡る環境の変遷についても紹介。地震、津波、復興工事とめまぐるしく変わる環境に迎え、芽吹き、生きる被災地の植物とその環境について思いを馳せる。

[日程]3月25日～7月16日
[会場]せんだい3.11メモリアル交流館



倉科光子《Certain place in Fukushima (スナビキソウ)》(2018～22年)

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

関東

●群馬県高崎市

高崎芸術劇場

〒370-0841 高崎市栄町9-1
Tel. 027-321-7302 和南城広幸
<http://takasaki-foundation.or.jp/theatre/index.php>

高崎芸術劇場6台のフルコンサートグランドピアノ

高崎芸術劇場の施設・設備の紹介と、さまざまな体験を提供する「オープンシアター」の第7弾。今回は、劇場が所有する6台のフルコンサートグランドピアノ(スタインウェイ、ベーゼンドルファー、ヤマハ)すべてがピアニストによって選定されたという、全国的にも稀な経緯を活かした企画。選定を担当した仲道郁代と金子三勇士がどのような視点で選んだのかレクチャーするほか、実演によって個体ごとの音色を比較したり、ピアノの魅力を見つけられる。

[日程] 6月7日

[会場] 高崎芸術劇場

●埼玉県和光市

和光市文化振興公社

〒351-0192 和光市広沢1-5
Tel. 048-468-7771 塚田美穂
<http://www.sunazalea.or.jp/>

和光市民文化センターサンアゼリア開館30周年記念「誰でもコンサート2023~Over The Border~」

2019年より継続開催されているコンサート。急に大きい音が鳴らない・客席が暗転しない・声が出て大丈夫など、誰もが気兼ねなく楽しむことができる。また、和光市ゆかりの若手演奏家による演奏とともに、放課後等デイサービスに通う障がいのある子どもたちを中心とした合唱団による合唱、両者の共演による演奏も行われる。

[日程] 6月24日

[会場] 和光市民文化センターサンアゼリア

●千葉市

千葉市美術館

〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8
Tel. 043-221-2311 田辺昌子
<https://www.ccma-net.jp>

つくりかけラボ11

「金田実生 | 線の王国」

つくりかけラボは「五感で楽しむ」「素材にふれる」「コミュニケーションがはじまる」といったテーマを軸に、アーティストが公開制作やワークショップを通して空間をつくり上げていく参加・体験型のプロジェクト。今回は、画家・金田実生を迎え「線」をめぐるプロジェクトを行う。会期中は美術館コレクションにも関わりながら「浮世絵の線を使って絵を描く」ワークショップや作家によるトークイベントなども開催される。

[日程] 4月17日～7月2日

[会場] 千葉市美術館

●東京都八王子市

八王子市学園都市文化ふれあい財団

〒192-0066 八王子市本町24-1
Tel. 042-622-6431 木村美紀子
<https://www.hachiojibunka.or.jp/>

伝統芸能一車人形三座競演

車人形とは、「ろくろ車」という、前に2個、後ろに1個の車輪が付いた箱形の車に腰掛けて、一人の人形遣いが一体の人形を繰る人形芝居。江戸末期に考案され、現在は東京都八王子市、奥多摩町、埼玉県三芳町の三座でのみ現存している。今回はその三座が初めて一堂に会し、それ



竹間沢車人形保存会(埼玉県三芳町)

ぞれの土地に伝わる自慢の演目を披露する。幕間には三座の代表のトークショーも行われる。

[日程] 6月3日、4日

[会場] いちようホール

●東京都府中市

府中市美術館

〒183-0001 府中市浅間町1-3
Tel. 042-336-3371 小林真結
<https://www.city.fuchu.tokyo.jp/art/>

発掘・植竹邦良 ニッポンの戦後を映す夢想空間

1928年に生まれ、戦後リアリズム美術運動のただ中に画家として歩み始めた植竹邦良。1960年代以降は安保闘争や学園紛争など世相を象徴する事件に題材を取りつつ、戦中の記憶や地形・建築といったモチーフへの執着を混在させ、細部が増殖しつつ反復するダイナミックな世界を構築した作品を手掛けた。府中ゆかりの知られざる画家の全貌を初紹介する展覧会。関連イベントとして、「戦後の社会と美術家」をテーマとした講座が予定されている。

[日程] 5月20日～7月9日

[会場] 府中市美術館

●東京都調布市

調布市文化・コミュニティ振興財団
〒182-0026 調布市小島町2-47-1 (調布市グリーンホール内)

Tel. 042-481-7611 阿部珠子

<https://www.chofumusicfestival.com/>

調布国際音楽祭2023

調布のまちを舞台に、クラシック音楽の楽しさにふれられる、音楽のお祭り。2013年に「調布音楽祭」の名でスタートし、11回目を迎える今年のテーマは、「One Melody for All」。音楽家・鈴木優人を中心に、人類は皆兄弟と歌う「第九」、映画やゲームに関連した音楽、視聴覚障がい者と共に歌う公演など、共生社会を推進するオリジナリティあふれる

るコンサートが多数予定されている。

[日程] 6月24日～7月2日

[会場] 調布市グリーンホール、調布市せんがわ劇場、深大寺 ほか

●横浜市

横浜みなとみらいホール

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい2-3-6

Tel. 045-682-2020 新野見・遠藤
<https://yokohama-minatomiraihall.jp/>

横浜みなとみらいホール開館25周年記念「Dive into the Future」

25周年を迎えたホールに新しい時代の予感と期待を感じさせる一夜限りのコンサート。近藤岳(横浜みなとみらいホール第2代ホールオルガニスト)、スガダイロー(ピアノ)、有馬純寿(エレクトロニクス)、大石将紀(サクソフォン)の4人が、パイプオルガン作品を織り交ぜながらパッサから現代、そして4人での30分にわたる即興で、聴衆を音楽のタイムトラベルへ誘う。

[日程] 6月9日

[会場] 横浜みなとみらいホール

●神奈川県鎌倉市

鎌倉市芸術文化振興財団

〒753-0075 鎌倉市雪ノ下1-5-25

Tel. 0467-23-6405

<http://www.kamakura-arts.or.jp/kaburaki/>

清方生誕145年記念

「東の美人画家、鏑木清方 —上村松園とともに—」

明治から昭和にかけておよそ70年にわたり、東京画壇を代表する日本画家のひとりとして活躍した鏑木清方。本展では、美人画家としての地歩を固めた大正期の江戸情緒豊かな作品を中心に、「東の清方、西の松園」と並び称された京都画家の上村松園の作品も交えて、魅力あふれる

近代美人画の世界を紹介する。
[日程]5月20日～6月25日
[会場]鎌倉市鎌木清方記念美術館

北陸・中部

●新潟県長岡市

長岡市芸術文化振興財団
〒940-0084 長岡市幸町2-1-2
Tel. 0258-29-7715 殖粟寿史
<https://www.nagaoka-caf.or.jp/municipal-theater/>

澤和樹プロデュース「どうする太郎 ～音楽ってこんなに楽しい!～」

長岡市立劇場の開館50周年を記念したコンサート。1996年の長岡リリックホール開館当初から長くアソシエートアンサンブルを務めた澤カルテットの澤和樹(ヴァイオリニスト、東京藝術大学第10代学長)に特別な音楽祭をしたいと相談して開催が実現。師弟関係にある葉加瀬太郎やチェリストの柏木広樹、現役・卒業生による藝大アンサンブルなど多彩なゲストを招き、ジャンルを超えて音楽の楽しさを体感できるスペシャルコンサートとなっている。

[日程]6月25日
[会場]長岡市立劇場

●富山県黒部市

黒部市美術館
〒938-0041 黒部市堀切1035
Tel. 0765-52-5011 尺戸智佳子
<http://kurobe-city-art-museum.jp/>

Kurobe Art Research vol.2
生誕100年 毛利武士郎と黒部

黒部市にゆかりのある作家を紹介するシリーズ「Kurobe Art Research」。2回目の今回は、生誕100年を迎える彫刻家・毛利武士郎(1923～2004)を取り上げる。毛利は晩年の約12年間、黒部市にアトリエと自宅を構えて制作を続け、没後アトリエは「シーラカンス 毛利武士郎記念館」

として運営され、地域の芸術活動拠点となっている。記念館との共催で、初期から晩年までの創作を俯瞰的に振り返る。

[日程]4月15日～6月25日
[会場]黒部市美術館

●石川県金沢市

金沢21世紀美術館
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
Tel. 076-220-2800 黒澤・野中
<https://www.kanazawa21.jp/>

Alex Da Corte Fresh Hell
アレックス・ダ・コルテ
新鮮な地獄

アジアの美術館で初めてとなるアメリカ人アーティスト、アレックス・ダ・コルテの大規模な展覧会。人気アニメのキャラクターや美術史上の人物に自ら扮するなど、メディアを通して伝えられる「イメージ」とは一体何なのかを問いかける映像インスタレーションなどで知られ、近年世界的に評価が高まっている。アメリカの消費文化のポップさなど一見楽しげながら、現実の陰鬱さも共存する11点のインスタレーションを展示。

[日程]4月29日～9月18日
[会場]金沢21世紀美術館



アレックス・ダ・コルテ《開かれた窓》(2018年) ©Alex Da Corte studio

●長野県長野市

長野市文化芸術振興財団
〒380-8512 長野市大字鶴賀緑町1613
Tel. 026-219-3100 長谷川裕晃
<https://www.nagano-arts.or.jp/>

長野市美術館
ジャズ・フェスティバル2023

ジャズを中心にフュージョンやブルース、ルーツロックなど幅

広いジャンルの国内トップミュージシャンが長野市美術館に集結。5回目となる今回は2日にわたり開催。日本ジャズ界を代表するサクソプレイヤーの峰厚介、ニューオリンズ色の強いピアニスタイルが特徴の白井ミトンなどが登場し、国内外で活躍するアーティストとのコラボレーションを果たす。

[日程]6月10日、11日
[会場]長野市美術館

●岐阜県岐阜市

岐阜市文化センター
〒500-8842 岐阜市金町5-7-2
Tel. 058-262-6200 山田誠
<https://gifu-culture.info/>

市民ふれあい事業
「歴史の追奏—音は世につれ世は音につれ—」

市民プロデュース公演応援プロジェクトの一環で、市民の多様な舞台創造活動の推進を図ることを目的に実施される企画。今回は岐阜市を中心に活躍する中島諒子・清薫 サックス&ピアノデュオの公演を開催。プロジェクターなど映像を用いて音楽史をわかりやすく解説し、聴くだけでなく「目で見て知る」ことで最初から最後まで楽しめる内容となっている。

[日程]6月17日
[会場]岐阜市文化センター

●浜松市

浜松市文化振興財団
〒431-3314 浜松市天竜区二俣町二俣20-2
Tel. 053-922-3301 山崎綾
<https://www.hcf.or.jp/facilities/mibu/>

シリーズ壬生の響きVol.3
「琵琶語りの夕べ」

音響に定評のある壬生ホールのPRを兼ねて、上質な芸術鑑賞の機会を日常にすべく開催している「シリーズ壬生の響き」の

Vol.3。楽器や曲の解説を丁寧に行いながらも全体を75分にまとめた構成で、今回は琵琶奏者・藤高りえ子が日本独自の楽器である筑前琵琶の魅力を届ける。「琵琶で聴く家康伝承」コーナーでは、藤高による委嘱初演曲も演奏予定。ロビーでは地場産品のマルシェも開催。

[日程]6月30日
[会場]浜松市天竜壬生ホール

●静岡県掛川市

掛川市文化財団
〒436-0079 掛川市掛川1142-1
Tel. 0537-62-2061 石井佳奈子
<https://k-kousya.or.jp/ninomaru/>

開館25周年記念特別展
「花と鳥 美の競演—細密工芸・日本画・日本洋画—」

四季折々の花々、かわいらしい小鳥や優雅な鳳凰など、いつの時代も愛された花と鳥の展覧会。25年に及ぶ当館収蔵品より江戸時代の日本画から戦後の油彩画、明治・大正期の工芸まで、花と鳥が表現された幅広い作品を出品。また、特別出品として伊藤若冲(複製)・石田幽汀の作品を展示する。さらに、開館20周年を迎える掛川花鳥園とコラボし、園で人気の鳥の写真も展示する。

[日程]5月20日～7月9日
[会場]掛川市二の丸美術館

●名古屋市

愛知県芸術劇場
〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2
Tel. 052-211-7552 関本淑乃
<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/>
オルガン・アワー～音のシャワーで心リフレッシュ～

オルガニストの石丸由佳を迎えて贈る、1時間でバッハや映画音楽などの名曲を楽しめる初級者向けのオルガンコンサート。今年は、5月に初心者向けの「THE

▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

オルガンNIGHT&DAY]を実施。9月には卓越した技巧が楽しめるファン向けの「オルガン・プレミアムアワー」、12月には広く一般向けの「クリスマスはオルガンだ!」と、年間を通してコンサートをお届けする。

[日程]6月23日

[会場]愛知県芸術劇場

●愛知県碧南市

藤井達吉現代美術館

〒447-0847 碧南市音羽町1-1

Tel. 0566-48-6602 大長悠子

<https://www.city.hekinan.lg.jp/museum/>

碧南市藤井達吉現代美術館リ ニューアル記念展 「碧い海の宝箱」

日本近代美術工芸史において、前衛的な活動を展開した藤井達吉(1881~1964)。彼の故郷である碧南市に開館した藤井達吉現代美術館の開館15周年およびリニューアル、碧南市制75周年を記念して開催する展覧会。新装した展示室等施設を公開するとともに、これまで収蔵してきた2,000以上の藤井にゆかりのある作品の中から、厳選した112作品を紹介する。

[日程]5月2日~6月25日

[会場]藤井達吉現代美術館



藤井達吉(大島風物図屏風)(左隻)(1916年/碧南商工会議所蔵)

●愛知県豊田市

豊田市美術館

〒471-0034 豊田市小坂本町

8-5-1

Tel. 0565-34-3131 石田・能勢

<https://www.museum.toyota.aichi.jp/>

企画展「吹けば風」

近年注目を集める新進気鋭の作家4名(川角岳大、澤田華、関川航平、船川翔司)の作品を介して、通常は見過ごされてしまうような細やかな発見や驚きに注目し、そうした体験を見つめなおす展覧会。会場では、本展で初めて公開される最新作を含む絵画や映像、インスタレーション、パフォーマンスなどさまざまなジャンルの作品が並び、4人の作家それぞれ独自の視点で示す4通りの体験を楽しむことができる。「コレクション企画 粋と波」も同時開催。

[日程]6月27日~9月24日

[会場]豊田市美術館

近畿

●三重県伊賀市

伊賀市文化都市協会

〒518-0809 伊賀市西明寺

3240-2

Tel. 0595-22-0511 吉川和義

<http://www.bunto.com/>

大平和正「風還元/茶碗」

—茶碗は彫刻Ⅵ—

江戸時代の武家屋敷で現在も茅葺屋根である入交家住宅で、茶碗を彫刻(オブジェ)としてとらえている伊賀市在住の作家・大平和正による、茶碗を場との関係で存在させるインスタレーション



大平和正「風還元/茶碗 HK-2223」(入交家の土間にて) Photo: Shigemitsu Ebie

を開催。茶碗を展示台ではなく居住空間に置くという試みで、茶を飲む器としての概念にとどまらず、それを突き抜けたオブジェとして武家屋敷のもつ往時の気配と空気感を感じてもらおう。

[日程]6月3日~18日

[会場]入交家住宅

●大阪府豊中市

豊中市立文化芸術センター

〒561-0802 豊中市曾根東町

3-7-2

Tel. 06-6864-5000 井上周

<https://www.toyonaka-hall.jp/>

とよなかARTSワゴンフェスティ バル2023

2019年から始まった、地元で活躍するアーティストと市民コーディネーターを育てる人材育成事業「とよなかARTSワゴン」。本公演では、そこで活躍するアーティスト9名が20分間という時間で自身の音楽を披露する。来場者に楽しんでもらうことはもちろん、各々がどんな音楽の世界をつくり出すのか知ってもらい、地元の人々とアートを通して繋がると同時に、活躍の場を広げる機会とする。

[日程]6月3日

[会場]豊中市文化芸術センター

●大阪府茨木市

茨木市文化振興財団

〒567-0888 茨木市駅前4-6-

16

Tel. 072-625-3055 松本美憂

<https://www.ibabun.jp/>

子どものための狂言体験講座

小学生を対象にした狂言体験講座。感受性豊かな20人の子どもたちが伝統芸能・狂言に出会う。茂山千三郎(大蔵流狂言方)が講師を務め、4回の講座を通して狂言『菌(くさびら)』・小舞『土車(つちぐるま)』を教わり、最後の5回目にホールで発表を行う。毎年行う人気講座で、今

回はすでに定員に達し、キャンセル待ちとなっている。

[日程]6月10日、17日、24日、7月1日、2日

[会場]茨木市市民総合センター(クリエイトセンター)



狂言『菌』発表の様子(令和2年度)

●大阪府能勢町

能勢人形浄瑠璃実行委員会

〒563-0341 豊能郡能勢町宿野30

Tel. 072-734-3241 乾はるな

<https://www.jyoruri.jp/>

2023年6月能勢浄瑠璃月間

能勢人形浄瑠璃鹿角座公演

「能勢の浄瑠璃」(素浄瑠璃)に、人形と囃子を加えて1998年に生まれた「能勢人形浄瑠璃」。約60人(子どもたち約20人を含む)で活動している能勢人形浄瑠璃「鹿角座」が、拠点となる浄瑠璃シアター開館30周年と能勢人形浄瑠璃デビュー25周年を記念して、能勢オリジナル演目の『能勢三番叟』、子どもたちが中心となる『伊達娘恋緋鹿子』、今回初上演となる『傾城恋飛脚』の3演目を上演する。

[日程]6月24日、25日

[会場]浄瑠璃シアター

●神戸市

横尾忠則現代美術館

〒657-0837 神戸市灘区原田通3-8-30

Tel. 078-855-5607 早水千尋

<https://ytmoca.jp/>

横尾忠則 原郷の森

2022年に出版された横尾忠則による小説『原郷の森』は、主人公Yがピカソや三島由紀夫、

黒澤明などさま-ざまな分野で名を残した著名人たちと芸術や人生について時空を越えて語り合い、ダンテの『神曲』のように異界を旅する。本展では、森を模した空間で、この小説に関連した横尾の作品を、小説から抽出したいくつかのセリフとともに展示することで、文字のみで表された世界を視覚的に体験できる。

[日程] 5月27日～8月27日

[会場] 横尾忠則現代美術館

●兵庫県芦屋市

芦屋市立美術博物館

〒659-0052 芦屋市伊勢町12-25

Tel. 0797-38-5432 川原百合恵

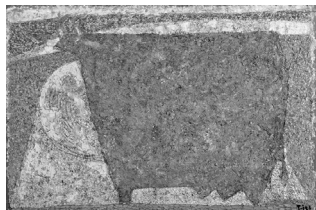
<https://ashiya-museum.jp/>

特別展「芦屋の美術、もうひとつの起点—伊藤継郎」

大阪に生まれ、青年期より生涯にわたり芦屋の地で描き続けた画家・伊藤継郎(1907～94)。当美術博物館のリニューアルオープンを記念して、1991年の開館以来32年ぶりに、伊藤の没後としては初の大規模な展覧会を開催。伊藤の画家としての道のりを全5章構成で紹介するほか、伊藤と交流のあった20名の多彩な画家の作品も展示。期間中には小中学生を対象としたワークショップ等さまざまなイベントを実施予定。

[日程] 4月15日～7月2日

[会場] 芦屋市立美術博物館



伊藤継郎《阿蘇の赤牛》(1961年/油彩、布/芦屋市立美術博物館蔵)

●和歌山県田辺市

田辺市立美術館

〒646-0015 田辺市たきない町24-43

Tel. 0739-24-3770 糸川風太

<https://www.city.tanabe.lg.jp/bijutsukan/>

近代紀南の画家Ⅳ 青木梅岳

近代に紀南出身者で画家として活動した人物の軌跡を、当地の美術の動向や日本近代美術史との関係と位置づけて紹介する展覧会シリーズ「近代紀南の画家」。4回目となる今回は、松阪に生まれ、新宮や田辺など紀南遍歴を経て海南藤白で活躍した画家・青木梅岳を取り上げる。田辺に居住していた明治期の作品や海南に移住した大正から昭和期の和歌山の風景などを描いた作品、また梅岳の門弟たちの作品も併せて展覧し、近代和歌山の画界を彩った梅岳一門の活躍を知ることができる。

[日程] 4月15日～6月18日

[会場] 田辺市立美術館

中国・四国

●鳥取県倉吉市

アザレア音楽祭実行委員会

〒682-0817 倉吉市住吉町77-1 (倉吉市文化活動センター内)

Tel. 0858-23-6095 計羽孝之

<http://kura-azalea.sakura.ne.jp/>

第40回アザレア音楽祭

倉吉市の花ツツジが咲く5月頃から毎年開催され、今年で40回を数える音楽祭。各地で活躍中の山陰地方を代表する演奏家が次々と出演し、1カ月以上の期間開催する。これまでの音楽祭で高い人気を誇ってきたトランペッター・尾崎浩之の3度目の招聘や、音楽監督の辺見康孝率いるアザレア室内合奏団による優れた演奏は今回の目玉公演となっている。

[日程] 5月14日～6月25日

[会場] 倉吉未来中心、倉吉交流プラザほか

●島根県浜田市

浜田市立石正美術館

〒699-3225 浜田市三隅町古市場589

Tel. 0855-32-4388 上田優里

<http://www.sekisho-art-museum.jp/>

企画展「画家の仕事・画家の道具」

東洋・西洋の美術を広く研究し、独自の技法を考案しながら、現代に生きる自分しか描けない作品を追求した島根県出身の日本画家・石本正(1920～2015)。多くの人と描く喜びを共有し、故郷・石見地域の芸術文化の発展にも貢献した。本展では、石本ら現代日本画家12名の収蔵作品を展示し、作品の描き方や道具、制作にまつわるエピソードとともに「画家の仕事」を多角的に読み解く。

[日程] 6月3日～8月20日

[会場] 浜田市立石正美術館

●広島県廿日市市

廿日市市芸術文化振興事業団

〒738-8509 廿日市市下平良1-11-1

Tel. 0829-20-0111 田中仁

<https://www.hatsukaichi-csa.net/>

はつかいち室内合奏団“SA・KU・RA”演奏会2023

はつかいち室内合奏団“SA・KU・RA”は、はつかいち文化ホールを拠点に演奏活動を行うプロアンサンブルとして2020年4月に発足。普段は学校訪問コンサートなど、地域に根差した活動を行っている。昨秋の演奏会に続き、国際的なヴァイオリニストである澤和樹を指揮・独奏に迎えて開催。耳馴染みのあるクラシックや、地元の作曲家・徳永崇に委嘱した巖島神社で舞われる舞楽『萬歳楽』をモチーフにした新作を演奏する。

[日程] 6月17日

[会場] はつかいち文化ホール
ウッドワンさくらびあ

●山口県山口市

山口情報芸術センター[YCAM]

〒753-0075 山口市中国園町7-7

Tel. 050-3479-3416 奥田奈々子

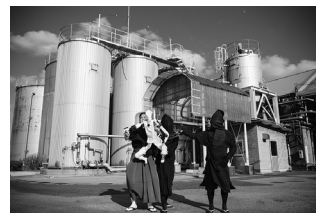
<https://www.ycam.jp/>

許家維+張碩尹+鄭先諭 浪のしたにも都のさぶらふぞ

海外の国際展にも招聘されて国際的にも注目を集め、近年は、共同で、日本統治時代の台湾における砂糖産業を起点に、台湾と日本の歴史的関係や近代化の記憶をたどるプロジェクトを行っている3名の台湾人アーティストによる新作を発表する展覧会。山口からほど近い門司および門司港を舞台に、台湾と日本の近代化や戦争の記憶を、地域にゆかりのある製糖の歴史や平家物語と重ねながら、日本の伝統的な人形劇である人形浄瑠璃とCGアニメーション、音楽、ライブパフォーマンスにより描く。

[日程] 6月3日～9月3日

[会場] 山口情報芸術センター[YCAM]



撮影: 山中慎太郎(Qsyum!)

●香川県高松市

高松市市民文化祭アーツフェスタ

たかまつ2023事業運営委員会

〒760-0019 高松市サンポート2-1 (高松市文化芸術財団内)

Tel. 087-825-5010 多田歩

<https://www.sunport-hall.jp/>

高松市市民文化祭 アーツフェスタたかまつ2023

1975年から毎年開催され、今年で49回目となる市民参加型の文化の祭典。音楽や舞踊、伝統芸能とさまざまなジャンルで18組の文化芸術団体が“高松

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

の芸術”を披露し、初夏を彩る一大イベントとなっている。例年サンポートホール高松を会場としていたが、今年は改修に伴い高松市内の複数の公共的施設で行われ、公募により決定したポスターは高松市から文化の大波が盛り上がるイメージで制作された。

[日程] 6月3日～8月27日
[会場] 高松市内公共施設

●香川県丸亀市

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
〒763-0022 丸亀市浜町80-1
Tel. 0877-24-7755 竹崎瑞季
<https://www.mimoca.org/>

中園孔二 ソウルメイト

25歳の若さで生涯の幕を閉じた画家・中園孔二(1989～2015)が最後を過ごした香川県で、過去最大規模となる約200点の絵画作品を展示する個展。ドローイングやインタビュー映像なども併せて紹介し、一人の作家とは思えないほど多様な絵画を生み出した創作活動の謎に迫る。

[日程] 6月17日～9月18日
[会場] 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

九州・沖縄

●福岡市

福岡市美術館
〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6
Tel. 092-714-6051 八並美咲
<https://www.fukuoka-art-museum.jp/>

夏休み子ども美術館2023

「うつくsea!すばらsea!

人々にさまざまな恩恵を与え、多様な表情を見せる海。先人たちが海とどのように向き合い表現してきたのか、《亀形合子》(16-17世紀 本多コレクション)や《塩竈松島図屏風》(江戸時代18世紀)など美術館所蔵の古美術作品を通して紹介する展覧会。関連企画として「ギャラリーツアー for キ

ッズ!」を開催し、会場内に設置した「夏休みこどもとしょかん」では展示関連の絵本を紹介する。
[日程] 6月27日～9月10日
[会場] 福岡市美術館



2022年のギャラリーツアー forキッズ!の様子

●長崎県佐世保市

アルカスSASEBO
〒857-0863 佐世保市三浦町2-3
Tel. 0956-42-1111 和合直樹
<https://www.arkas.or.jp/>

佐世保市民文化ホール開館100周年記念コンサート「100年の歴史に思いをはせて～大正、昭和、平成・令和の音楽とともに～」

1923(大正12)年に旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館として建設され、今年開館100周年を迎える佐世保市民文化ホール。建設当時をしのぶトークを交えながら、アニメ化されたゲームの聖地にもなっている現在から、ジャズの生演奏が響きわたり「ジャズの聖地」とも呼ばれた昭和時代、多くの唱歌や童謡が生まれた大正時代と、これまでの100年の歴史を遡りながら音楽で振り返る。

[日程] 6月18日
[会場] 佐世保市民文化ホール

●熊本市

熊本県立劇場
〒862-0971 熊本市中央区大江2-7-1
Tel. 096-363-2235 黒木正美
<https://www.kengeki.or.jp/>

ホワイエサロンコンサートVol.6
藤原道山×SINSKE「東方見聞録—諸国漫遊記編—」

コンサートホールホワイエを会場とした「ホワイエサロンコンサート」シリーズの第6弾。今回は尺八演奏家・藤原道山とマリンバ奏者・SINSKEのデュオによる公演を開催する。日本で古くから親しまれている日本唱歌や民謡のほか、世界各国の多様な名曲をお届けする。

[日程] 6月17日
[会場] 熊本県立劇場

●熊本県宇城市

宇城市不知火美術館
〒869-0552 宇城市不知火町高良2352
Tel. 0964-32-6222 里村真理
<https://www.museum-library-uki.jp/museum/>

おかえりなさい、シスコさん—100年前の松橋を旅する

宇城市松橋町で育った塔本シスコ(1913～2005)は53歳の時、息子のキャンパスの絵の具をそぎ落として、見よう見まねで油絵を描き始めてから、亡くなるまでの約40年間、たくさんの作品を残した。今回は自身の子どもの時代や約100年前の松橋での思い出など、ふるさとを溢れるエネルギーと鮮烈な色彩で描いた作品を展示する。また荒井良二(絵本作家)、野村誠(作曲家)、itiiti(プロダクトデザイナー)をゲストに迎え、市民と自由な創作活動を展開する「シスコラボ」を実施。創作活動で生まれた巨大な絵や音楽などをシスコ作品とともに展示する。

[日程] 4月15日～6月15日
[会場] 宇城市不知火美術館



「おかえりなさい、シスコさん」展示風景

●大分県大分市

大分県立美術館
〒870-0036 大分市寿町2-1
Tel. 097-533-4500 宇都宮・梶原
<https://www.opam.jp/>

朝倉文夫生誕140周年記念

「猫と巡る140年、そして現在」

日本の近代彫刻を牽引した大分県豊後大野市出身の彫刻家・朝倉文夫(1883～1964)の生誕140年を記念し、猫の作品を中心に振り返るとともに、大分を拠点に国内外で活動する美術家の安部泰輔と絵本作家・美術家のザ・キャビンカンパニーの視点も通じて、朝倉の作品を改めて顕彰する。本展をきっかけに、記念館や遊歩公園など市内に点在する朝倉作品を訪れ、その足跡を知る機会となることも期待する。

[日程] 6月9日～8月15日
[会場] 大分県立美術館



朝倉文夫《よく獲たり》(1946年/大分県立美術館蔵)

夏休み子ども企画／フェスティバル情報 求む!

7月号(6月25日発行予定)では恒例の「夏休み子ども企画／フェスティバル特集」を予定しています。下記までどしどし情報をお寄せください。

Tel. 03-5573-4093
Fax. 03-5573-4060
letter@jafra.or.jp
締め切り: 6月2日(金)

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

島根県雲南市

雲南市創作市民演劇2023 『花みちみちて街』



桜並木が舞台を覆い尽くしたラストシーン

●雲南市創作市民演劇2023『花みちみちて街』

[主催]雲南市演劇によるまちづくりプロジェクト実行委員会

[会期]4月29日、30日(全2回公演)

[会場]雲南市木次経済文化会館 チェリヴァホール

[脚本・演出]亀尾佳宏

●実行委員長・吾郷康子のコメント

私と演劇の出合いは三刀屋高校演劇部、そして市民劇の原点となったのは『桜並木の物語 ひと花の吹雪』(1998年)に出演したことです。この舞台は木次町時代のチェリヴァホールにいた熱心な職員が町の歴史を調べたことがきっかけでつくられました。立ち見が出るほどの大盛況で、大袈裟ではなく、町が動いた!その時に「演劇でまちづくりができる」と確信しました。2004年に合併し、チェリヴァホールを運営することになったキラキラ雲南(*)の大坂亮さん(現館長)に「演劇でこのホールを盛り上げたい」と言われ、我が意を得たりと演劇で人づくりをする「雲南市演劇によるまちづくりプロジェクト」を立ち上げました。私は市民だけのつもりでしたが、亀尾さんに「演劇をやりたいくてもできない人に場を提供することに意義がある」と言われた。そうした参加者も観客も市外からたくさん来られて、これが交流人口を増やすということかと感動しました。子どもたちが自信をつけたり、大人も一回り成長したり。演劇には人間を変ええる力があり、それが町を元気にする。私は今回で実行委員長を引退しますが、今後も楽しみに見守りたいと思っています。

*株式会社キラキラ雲南
雲南市の文化スポーツ関連の全11施設を指定管理する第3セクター。

島根県雲南市のチェリヴァホールで、2010年から続く創作市民演劇。第2回公演からは脚本・演出に、県内の高校演劇部顧問で若手演出家コンクール2021最優秀賞にも輝いた亀尾佳宏教諭を迎え、地元を題材にした多彩な作品群で注目を集めている。記念すべき10作目を数えた、23年公演『花みちみちて街』を取材した。

鮮やかなラッピング車両が停まる、JR木次線木次駅。町の名所であり、全長2キロにも及ぶ斐伊川堤防桜並木に程近い駅前に、雲南市木次経済文化会館チェリヴァホールはある。桜(チェリー)と川(リヴァー)をかけ合わせた造語を愛称とし、天井にも桜模様を配するなど、桜と町との深い関わりが窺える。今回の作品は、そんな町の歴史を踏まえて、「日本さくら名所100選認定30周年記念事業」として行われた新作だ。2020年からの3年間は公演中止、無観客上演、客数制限とコロナ禍による苦難が続き、ようやく本来の姿での公演が実現した。

参加したのは市内外からの出演者31名、スタッフ12名。出演するのも裏方、表方も公募による一般人が中心という言葉通り、開演前のロビーでは市民が演奏し、高校演劇部の生徒が観客の誘導や照明・音響のオペレーションで参加し、実行委員会の市民がパンフレットを配布するなど、そこここにまちの人々の姿があった。

物語は「今回の市民劇を稽古中のチェリヴァホール」という設定で、脚本が書けなくて悩む作家(亀尾さん本人が登場)を軸に展開。大正から昭和にかけて町民が植栽した桜を地元の小学生が担当の樹を決めて世話をしたという由来や、実際に公募した桜並木にまつわる思ひ出話、過去の創作市民劇のシーンを織り交ぜた作品になっていた。場面転換のためにつくった手動の回り舞台、ラストシーンで舞台を覆い尽くす桜並木の美術など、人々が力を合わせた様子が各所から伝わってくる。

亀尾さんは、顧問を務める三刀屋高校演劇部が第1回創作市民劇に参加した縁で、第2回から脚本・演出を担い、以来、古事記や戦国武将の山中鹿介、廢線の危機にある木次線、医

学博士の永井隆など、地域に縁のある題材で群像劇を発表してきた。自ら劇団(劇団一級河川)も主宰するが、それと市民劇の創作方法は根本的に異なるという。

「市民劇で最も大事なものは、集まったメンバーをいかに生かすか。この人たちならこの方向が面白いかもしれないと、“書かせてもらっている”感覚です」と言い、ト書きだけ渡して稽古を進め、具体的な台詞は役者に任せることも多いとか。『花みちみちて街』のハイライトともいべきシーンに、不登校の少女が演劇に自分の居場所を見つけたことを告白するくだりがあるが、これも出演者が自分の経験から発したセリフだ。「僕がつくったものより、出演者の人生から出てくるもののほうが遥かに強い」という亀尾さんの言葉も頷けるリアリティがあった。

プロジェクトを通して地域で育った人材が地域に戻り、その力となる循環も出来つつある。雲南市のもうひとつの文化拠点である雲南市加茂文化ホール ラメールの市民ミュージカルで演劇を始め、演劇を続けたくて三刀屋高校演劇部に進んだという勝部瑞穂さんは、創作市民劇3回目の出演。「年代が違う人たちは、やはり自分とは違う価値観をもっていて、良い経験をたくさんさせていただいています。創作市民劇が大好きで、今後もずっと関わりたいので、県内の大学に進む予定です」と心を寄せる。

昨年チェリヴァホールの職員となった青木奈緒さんは、三刀屋高校演劇部時代に創作市民劇に出演。その後、四国学院大学で演劇を学んだ。「いつかは地元に戻って演劇の仕事をしたいと思っていた私にとって、チェリヴァホールの存在は大きかった。同期にも、今は県外にいるけれどいずれは、と考える人は多いです」とのこと。各所で経験を積んだ彼らが新戦力として活躍する未来が楽しみだ。

2015年からの5年で約3,000人の人口減となった雲南市だが、「自分を表現できる、それを見ることができる場があるのは町の豊かさの証」(亀尾)と、劇場に集う人々の瞳は明るい。交流と発信の場として、今後も大いに期待したい。

(羽成奈穂子)